

## 2023 年度 一般社団法人日本臨床化学会 第 1 回理事会 WEB 開催議事録

日 時：2023 年 6 月 30 日（金）13：00～14：20

議 長：三井田孝（理事長）

出席者：三井田孝（理事長）

石井直仁、菅野光俊、山田俊幸、吉田 博（以上 常務理事）

川崎健治、恵 淑萍、河野麻理、酒瀬川信一、坂本秀生、城野博史、中川沙織、橋口照人、

濱田悦子、堀田多恵子、山口哲史、山下計太（以上 理事）

前川真人、三浦雅一（以上監事）

欠席者：大川龍之介（常務理事）、小谷和彦、仁井見英樹（以上 理事）

理事出席者数 17 名（理事数 20 名）、全出席者数 19 名

### 議 題

#### 1. 開会の辞（三井田 理事長）

- ・理事総数 20 名中 17 名の出席があり理事会は成立した。
- ・理事長より開会の挨拶があった。

#### 2. 議事録確認者の指名（三井田 理事長）

- ・酒瀬川理事、山下理事に依頼した。

#### 3. 報告事項

##### 1) 庶務報告（吉田 庶務担当理事）

- ・会員の現状報告ならびに事業報告・事業計画について報告がなされた。

##### ①学会会員現状報告

- ・2023 年 6 月 20 日時点で、正会員 1,447 名、正会員（30 歳未満）132 名、評議員 167 名となっており、会員数は順調に増加している。有功会員については、会費を一律 3,000 円に変更したため、会員継続の可否について調査したところ、37 名から継続の回答があった。

##### ②事業報告・事業計画

- ・会議関連はすべて WEB にて開催した。
- ・今後は年会時の会議開催、学会誌発行などを予定している。
- ・近畿支部にて若手育成委員会による研修会（現地開催）を検討中。

##### 2) 2022 年度に関する利益相反調査報告（酒瀬川 法務担当理事）

- ・2022 年度に関する利益相反調査の報告がなされた。
- ・対象者は社員 167 名、専門委員会委員 53 名の計 220 名で、現時点での回答者数は 217 名となり、回答率は 98.6%となっている。利益相反ありと回答があった方は 41 名であった。

##### 3) 2023 年度学会賞・Young Investigator Award 報告（恵 学術担当理事）

- ・2023 年度の学会賞ならびに YIA の受賞者が決定した旨報告がなされた。
- ・学会賞は、学術賞 1 名、奨励賞 2 名、技術賞 1 社、論文賞 1 名、YIA は各支部より 1 名の選出があり 9 名選出された。

##### <学会賞>

学術賞：中川 沙織氏（新潟薬科大学）

奨励賞：工藤 海氏（東海大学）、徳原 康哲氏（香川県立保健医療大学）

技術賞：富士レビオ株式会社

論文賞：高井 雅之氏（株式会社シノテスト）

##### <Young Investigator Award (YIA)>

北海道支部：佐崎 生氏（北海道大学大学院）  
東北支部：西原 ゆり氏（東北大学病院）  
関東支部：吉本 明氏（東京医科歯科大学）  
甲信越支部：涌井 杏奈氏（新潟大学大学院）  
東海・北陸支部：竹林 史織氏（浜松医科大学医学部附属病院）  
近畿支部：松尾 佳乃氏（京都橘大学大学院）  
中国支部：川野 伶緒氏（国立長寿医療研究センター）  
四国支部：溝渕 あかね氏（愛媛大学医学部附属病院）  
九州支部：十島 崇嘉氏（九州大学病院）

- ・学会賞の技術賞については、申請が少ないため、応募に関する呼びかけをお願いしたい。なお、技術賞は自薦だけでなく、他薦も可能なので今後は積極的に応募いただけるようご協力いただきたい。

#### 4) 認定関連報告（濱田 教育担当理事）

##### ①2023 年度認定臨床化学者申請状況

- ・新規申請者数 10 名、更新申請者数 18 名（更新対象者数 30 名）となっている。

##### ②2023 年度認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者制度報告

- ・試験は、2024 年 1 月の日曜日に、文京学院大学の会場を使用し実施予定。申請の詳細（新規・更新とも）は現在検討中。
- ・指定講習会は、昨年度までは年次学術集会の最終日に会場で開催していたが、今年度からオンデマンド配信とすることが決定した。日本臨床衛生検査技師会（日臨技）の指定講習会と講演の内容が重複しないよう検討中。管理者向けの内容を盛り込む予定。
- ・更新者のためのセミナーは 10 月にオンデマンドにて開催予定。
- ・今後は若手育成委員会ともコラボして研修会の開催を進めていきたい。

#### 5) 第 63 回年次学術集会準備状況報告（吉田 第 63 回年次学術集会長）

- ・第 63 回年次学術集会の進捗状況について報告がなされた。

会 期：2023 年 10 月 27 日（金）～29 日（日）

会 場：ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）

集会長：吉田 博氏（東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 教授）

副集会長：小倉正恒氏（順天堂大学 医療科学部 臨床検査学科・教授）

テーマ：持続可能な医療の質を支える臨床化学の発展

開催形式：現地開催をメインに一部のセッションはオンデマンド開催についても検討中。

#### 6) その他

##### ①日本臨床検査同学院遺伝子審議会委員交代について（三井田 理事長）

- ・中谷 中先生が本会を退会したため、本会からの委員として遺伝子検査専門委員会副委員長の渡邊 淳先生（金沢大学附属病院）を推薦し承認された。

##### ②第 70 回日本臨床検査医学会学術集会共催シンポジウムについて（堀田 理事）

- ・基準範囲共用化委員会で担当する。
- ・テーマは「臨床検査のミッション」とし、講師は山下計太先生、市原清志先生、堀田多恵子先生、座長は山田俊幸先生、堀田多恵子先生に依頼した。

##### ③日本肝臓学会「奈良宣言」について（三井田 理事長）

- ・日本肝臓学会にて、一般的な健康診断での肝機能検査として血液検査で広く測定されている ALT 値に注目し、指標として ALT over 30 を用いる「奈良宣言」が発表された。この件について、酵素・試薬専門委員会でも検討したが、酵素・試薬専門委員会プロジェクトの「ALT の JSCC 測定法の見直し」については直接影響しないと考えるとの報告があった。

##### ④須藤加代子先生 遺贈について（三浦 監事）

- ・須藤加代子先生の遺言執行書より、本会宛に多額の寄附をいただくことになった。遺贈の内容は、不動産4物件と預貯金で、寄附は不動産物件が全て売却されて現金化された後に実施される。不動産については売却がされていない物件に家賃収入が発生するものがあり、2022年度の決算に計上した。
  - ・できる限り早めに遺贈の問題を解決し、進めていきたいと考えている。須藤先生の遺志である、若い方向けの基金などを設立していく予定。
  - ・本案件について、学会事務局に通常業務以外の対応や手続きが発生しているため、遺贈についての手続きが終了した段階で費用を支払うこととした。
- ⑤日本薬系学会連合設立委員会について（城野 理事）
- ・5月1日に設立委員会が開催され、概要が決定した。本学会は要件を満たしており、加盟の方向で手続きを進めることとした。現在、30団体ほどの学会が加盟予定。

#### 4. 協議事項

##### 1) 会計関連

###### ①2022年度決算案（菅野 会計担当理事）

- ・決算案ならびに貸借対照表、正味財産計算書、財産目録について説明がなされ、承認された。
  - ・2022年度の収入合計（会費・事業・雑収入）は30,082,862円、支出合計（事業・管理費等）は22,195,799円となり、7,887,063円の黒字決算となった。
  - ・2022年度決算では遺贈に関連する家賃収入（収益事業）を追加計上した。
  - ・支出については、家賃収入が収益事業となるため、法人税が増額となった。
  - ・繰越額は、39,326,945円で、前年より790万円増となり、順調に推移している。

###### ②監査報告（前川 監事）

- ・2名の監事が別々に監査を行い、正当に執行されている旨確認したとの報告がなされた。

###### ③2024年度予算案について（菅野 会計担当理事）

- ・2024年度予算案について説明がなされ承認された。
  - ・収入については、学会誌の冊子体廃止のため、別刷り収入の項をゼロとし、公告収入もバナー広告のみとなったため、減額した。会費収入は現状の会員数を反映し算出した。
  - ・支出については、ニュースレターの費用を別途項目に追加した。また、選挙実施年度のため、予算に計上した。

##### 2) 試験委員会に関する謝金および旅費の支給について（菅野 会計担当理事）

- ・前回の理事会にて、試験委員会に関する謝金および旅費の支給について、会計担当の菅野理事と教育委員会の濱田理事に検討を依頼しており、今回下記の提案がなされ、承認された。

###### ①「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者」制度に関する運用マニュアルを作成する。

###### ②上記マニュアルに謝礼に関する規定を設定する。

A) 「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者」制度に関連する下記の項目に限定して、謝礼（講演料含む）を支払う。

- ・試験監督
- ・指定講習会講師
- ・更新セミナー講師（新たに企画したセミナーの講師に限る。データ二次利用の場合は除く）

B) 上記以外の項目、例えば試験問題の見直し、修正などは他の委員会同様無償とする。

C) 謝礼（講演料）は下記のとおりとする。

- ・試験監督 半日：3,000円、1日：5,000円（1名につき）
- ・講演料（指定講習会）5,000円（1名につき）

・講演料（更新セミナー） 5,000 円（1 名につき）

※ただし、新規で企画したセミナーに限る。データ二次利用の場合は除外する。

D) 旅費に関しては実費負担とする。

3) 新規専門委員会設立について（城野 理事）

- ・ TDM 専門委員会の設立について、学術連絡委員会にて承認を得たため、理事会にて審議し承認された。
- ・ 薬学部・薬剤部の先生を中心に若い方にも委員会に入っていた。
- ・ 第 63 回年次学術集会時にキックオフシンポジウムを予定している。

4) 技術賞募集要項の見直しについて（恵 学術担当理事）

- ・ 今年度の学会賞受賞者について、メールにて理事会報告をした際、技術賞受賞者について「同一企業の試薬の受賞が連続している」という指摘があった。この意見を受けて三井田理事長より、学会賞選考委員会宛に、①連続受賞の制限を募集要項に盛り込む必要性、②「技術賞」に応募する企業を増やすための工夫、の2点について学会賞選考委員会から理事会に提言いただきたいとの依頼があり、同委員会から募集要項の見直しについて提案がなされた。

<提案内容>

①連続受賞の制限を募集要項に盛り込む必要性について

- ・ 現時点では連続受賞制限を明文化することを避け、むしろ、応募件数を増やす努力をこれまで以上に積極的に行いたい。
- ・ 募集要項の目的と応募資格について、文言を一部変更する。

②「技術賞」に応募する企業を増やすための工夫

- A) 積極的に企業に応募を呼びかける。
- B) 企業に選考基準を周知する。
- C) 技術賞に選ばれる企業に対して、賞に貢献された社員への社内評価（表彰、社内報掲載など）を呼びかける。
- D) 現応募資格 1) の「最近 5 年間に上市している」の制限を、「最近 10 年間に上市している」に変更して、応募機会を広げる。
- E) 学会理事の推薦により応募企業を増やすことを目的として、理事推薦枠を設ける。通常の申請書に加えて、理事推薦書を添えることを可能にする。
- F) 新製品の開発だけでなく、従来品の優れた技術的改良や新しい価値の発見（例：適用疾患の拡大など）も対象に含めることとして、企業に周知する。
- ・ 応募資格 1) の最近 5 年間に上市しているという制限を 10 年に変更する件については、5 年間のままとすることになった。
- ・ 理事だけでなく、評議員からの他薦があってもいいのではないかという意見があった。
- ・ 現在、申請書がすべて共通なので、技術賞については新規性について明記する項目を作るなど、申請書の内容を変更することとした。
- ・ 来年度の募集までに間に合うよう、再度委員会で検討していただく。

5. その他（三井田 理事長）

①65 歳以上の会員の対応について

- ・ 65 歳以上の会員区分（名称は今後検討）を設け、65 歳以上の会員にも継続してもらえるよう、あり方検討委員会に検討を依頼する。年会費や年会参加費を減額するなど、会員継続のメリットを打ち出していきたい。

②次回理事会日程について

・ 拡大理事会は年次学術集会初日、10月27日（金）18：00より開催予定。

③役員登記について

・ 社員総会終了後、2週間以内に役員変更登記の申請を提出する。

6. 閉会の辞（三井田 理事長）

・ 理事長より挨拶があり、理事会は閉会した。

以 上

2023年7月20日

一般社団法人日本臨床化学会 新旧理事会

議長

三井田 孝



議事録確認者

酒瀬川 信一



議事録確認者

山下 訂太

